

家族社会学セミナー

ニュースレター

NO. 4

発行年月 1990年3月5日

編集・発行 家族社会学セミナー事務局

東京都新宿区戸山 1-24-1 〒162

Tel 03-203-4141 EXT 72-2370

第23回家族社会学セミナーについて

春も間近、年度末でご多忙のことと思います。第23回家族社会学セミナーについてお知らせいたします。21回および22回大会の共通テーマ『今、家族に何が起きているか』を締めくくる位置づけを与えられた第23回大会は、以下のような要領で開催することがほぼ決定しました。遠路ですが多数の皆様の参加を得て、内容の充実したセミナーになりますよう切望しています。何かと行届かないところがあるかもしれませんが皆様のご協力をお願いいたします。

大会開催要領

1. 期日：1990年7月23日(月)午後1時～
7月25日(水)正午まで

2. 場所：福岡市中央区天神

私学共済会館<ガーデン・パレス>

なお、ガーデン・パレスに宿泊可能な人数は100名ですので、50名近くの方々は近くの「アーク・ホテル」(会場から徒歩5分ほどの距離)に宿泊をお願いする予定です。

3. 実行委員会委員名(順不同)

染谷 倭子(鹿児島経済大学)

磯田 明子(活水女子短大)

坂岡 庸子(熊本女子短大)

牟田 和恵(佐賀大学)

野口 栄子(筑紫女学園短大)

木下 謙治(山口大学)

坂本 喜久雄(中村学園大学)

篠崎 正美(聖マリア学院短大)(委員長)

4. セミナーのテーマおよび部会構成
(敬称略)

共通テーマ

『今、家族に何が起きているか』

本年度のサブ・テーマ

『まとめ—家族変動の理論化と実証をめざして—』

第1セッション

本年度サブ・テーマに関連する自由報告

① 山中美由起(竜谷大学)

② 安達正嗣(兵庫県家庭問題研究所)

③ 山田昌弘(東京学芸大学)

あと二人の方に交渉中ですが、自薦を飲

迎します。

30%引き 約13,000円

第2セッション

「近代家族」論をめぐって

報告者 牟田和恵(佐賀大学)
庄司洋子(社会事業大学)

7月25日 福岡発 → 羽田着
19:35 → 20:05 50名
13%引き 約13,000円

第3セッション

家族の個人化と多様化をめぐって

報告者 目黒依子(上智大学)
松田苑子(清泉女子大学)
三谷鉄夫(北海道大学)

第4セッション

総括討論

討論者 森岡清美(成城大学)
野々山久也(甲南大学)
袖井孝子(お茶の水女子大学)
鈴木広(九州大学)
飯田哲也(立命館大学)

なお、プログラムには多少の変更があるかも知れません。ご了承ください。セミナー参加申込のご案内は改めて実行委員会から会員の皆様にお知らせいたします。

(篠崎正美記)

大会参加：東京・福岡 往復割引航空券の案内

森岡清美委員長のご尽力により、大会参加に合わせた東京から福岡への格安の団体割引往復飛行機券が利用できことになりましたのご利用ください。申込などにつきましては実行委員会からのレター(3月中に郵送)でお知らせすることになりますが、出発時間などを予めお知らせしておきます。

(篠崎正美記)

7月23日 羽田発 → 福岡着 (人数)

1) 7:55 → 9:35 20名

43%引き 約15,000円

2) 8:55 → 10:35 30名

機関誌編集委員会から のお知らせ

1. 第2号の進捗状況

「家族社会学研究」第2号の編集は、創刊号のパターンを基本的に継続発展させる方針のもとに、袖井孝子委員を中心として進行中です。昨年のセミナーに基づいた特集が柱になりますが、本号から念願の自由投稿欄が開設されます。お蔭様で1月末締切までに、編集に十分なだけの投稿が得られましたので、目下審査委員の方々にお返ししてあります。現在、他の依頼原稿(2月末締切)を心待ちにしている段階です。本号ではさらに、「動向欄」が起こされる他、「書評欄」については従来の形態の他に、短評の形で取り上げる本の数を増やす工夫もされています。ご期待ください。

2. 出版図書広告掲載について

創刊号から広告掲載に踏み切りましたが、これもお蔭様で多数の広告主のご協力が得られ、財源確保の手段としてばかりでなく、関連図書情報としても有益であるという感想も頂いておりますので、本号についても踏襲したい思います。つきましては、会員の皆さんで、最近本をお出しになった方、あるいは近々に出版される予定がある方は、ぜひ出版者側に働きかけていただきたいと思っております。それ以外にも、広告掲載の可能性がある出版社など、お心当たりがありましたら、事務局か編集委員までお知らせください。(石原邦雄記)

学会化委員会からのお知らせ

家族社会学セミナーの学会移行について昨年10月21日、日本社会学会大会の開催時に委員会を開催し、学会化に向けての以下のような件に付き検討した。現在当委員会内の専門委員会でそれぞれの事項に付き検討を重ねているが、ここに前回委員会での討議事項について報告しておくことにする。ぜひご意見をお寄せください。

I. 学会化への課題

1) セミナーは、すでにメンバーシップ制をとり、毎年開催することが決って機関誌も発行されるなど、すでに学会化に向けて、その一歩を踏み出している。残る課題は、会則を決め、学会としての発足を明確にすることである。

2) 学会化の目的、メリットについて再確認すれば次の通りである。

イ) 会員の相互研鑽により、研究水準をより高いものにする。

ロ) 新しい研究成果や情報の相互交換を行なう。

ハ) 家族社会学の水準を高め、研究活動を活性化する。

ニ) 若手研究者の業績を重ねる場となる。

II. 学会化へのステップ

1) 1990年の家族社会学セミナーにおいて学会化への方針を確認する。

2) その際、学会の名称、会則、学会設立総会などについて基本方針を検討する。

3) そのための原案を学会化委員会で作成する。

4) 1991年のセミナーを学会設立の会とする。

III. 検討課題

1) 学会の名称

1 案 日本家族社会学会

2 案 日本家族社会学セミナー

2) 設立の呼びかけについて

1 案 学会設立発起人により、学会設立と参加を広く呼びかける。

2 案 セミナーの企画運営委員会の名において、あるいはセミナー内に学会設立準備委員会を設置し(学会化委員会のメンバーを中心にこれを拡充してもよい)、その名においてセミナーを学会に組織がえすることを宣言すると共に、広く参加を呼びかける。

3) 設立総会のもち方について

a 関連学会を招待してセレモニーを行なうかどうか。

b 関連学会における家族研究についてのシンポジウムを行なう。

c 社会学のなかでの家族研究についてのシンポジウムを行なう。

d セミナーの特色である合宿制を維持するか。

e 学会開催の責任者をどうするか、個人中心か当番校制か。

f 学会事務局をどうするか。

IV. 今後の課題

1) 会則原案の作成については、本村、清水が中心になって準備する。

2) 設立総会のもち方、学会の運営については、青井、望月が原案を考える。

V. 1991年の設立総会のプログラム(望月利和案)

第1日	午後1時	受付
	1時30分	学会設立総会 会則審議 役員選出
	3時	設立記念講演
	5時	記念パーティ

第2日 午前9時30分

関連領域の代表者によるシンポジウム
「家族社会学に期待すること」

午後1時30分
家族社会学者によるシンポジウム
「家族社会学の課題」

午後7時
次年度の学会のもち方について
第3日 午前9時30分～12時
自由報告会
3人～4人の研究報告と討論
(望月記)

事務局からのお知らせ

会費納入のお願い 1990年2月末現在、
1988・89年度会費未納者は24人です。継続して2年度分の会費が未納のばあいは、
申し合せ事項(13項)により、1990年8
月末をもって退会者扱いとなります。ご
注意ください。

また、1989年度の会費未納者は70人余
です。納入にご協力ください。封書の宛
名シールに○印がついている方は会費が
未納になっています(1つは1989年度分
のみ、2つは1988・89年度未納)。

納入には郵便もしくは銀行振込をご利用
ください。

銀行：第一勧業銀行早稲田支店
普通1033815

郵便局：東京7-7756

いずれも口座名は

家族社会学セミナー事務局(代表者
正岡寛司)です。

なお、家族社会学セミナー申込用紙を
同封いたしましたので、必要な場合には
コピーなどをしてご利用ください。

住所・所属の変更および訂正

事務局より

『家族社会学研究』創刊号に掲載された稲葉昭英氏の論文「家族ストレス理論の再構成」の中の図表（図-1，p98）に重大な誤植がありました。お詫びして訂正いたします。

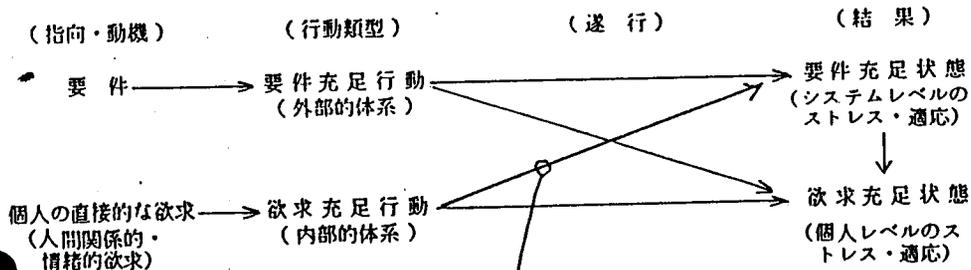


図-1 システムレベルのストレスと個人レベルのストレス

この線が欠落しておりました。補足を願います。

申し込み用紙

昭和 年 月 日

家族社会学セミナー
委員長 殿

お名前 フリガナ	
ご住所	
ご自宅電話番号	
勤務先・所属学校	
資格	
向上所在地	
向上電話番号	
催函者氏名	